

## 2. 各病院の医療機能体制に対するご意見（自由意見）

8月に提出した8団体連合（区長会、まちづくり協議会）による要望書「国保坂下病院の機能の存続」を強くお願いする次第です。

国保坂下病院機能存続については南木曾町地域振興協議会長会議で実施した「国保坂下病院の医療機能を要望する署名」に4,151名の署名が集まりました。これは南木曾町民の切実な願いの表れです。

国保坂下病院は紛れもなく地域総合病院として南木曾町を含め木曾南部地域を医療圏として幅広く支えていただきました。

国保坂下病院は地域公立病院として昭和23年開設以来68年の長きにわたり県境を超えて南木曾町（旧読書・吾妻・田立三村含め）住民に医療の提供、健康と命を守り、地域産業発展に至るまで幅広く地域を支えてきて頂いて来ました。

市町村合併が進められた中であっても、県境の地にある南木曾町にとって国保坂下病院は、地域包括医療を支える中核病院、国保坂下病院においては県境を超えた南木曾町を医療圏域に捉え包括的に様々な事業を推進してきました。

かつて南木曾町内には開業医が6機関あったがその後継者が居なくなり1機関のみとなった現在は国保坂下病院への依存度が益々高まっています。

南木曾町にとっては失う事の出来ない命の砦、機能後退は致命的で受け入れられません。又、南木曾町では町民の健康と命を守る観点から坂下病院移転新築事業、健康保険事業・機器整備、救急医療支援等に応分の負担し坂下病院運営を全面的に協力してきました。新病院建設後は町民の坂下病院利用者（通院・付き添い・看護者等）の足を確保するため南木曾町内全域から通院バスを運行しています。

病院の存在はライフラインの最もたるものであり、地域に生活する全住民、特に今後を担う若者にとっても重要な問題です。安心して子育てができる環境こそが定住・地域の発展に結び付くものと考えます。財政事情、医師不足等の現状も十分理解できますが、単なる一般民間会社の「収支決算」による存続・廃止の結論ありきではなく、中津川市としては南木曾町の実情を新摺に受け止めて頂き従前と変わらない形で病院機能存続していただきますよう切にお願いしたいと考えます。

坂下病院が仮に縮小なり診療所化となれば中津川市民病院での医療提供サービスも大きな影響を受けるだけでなく、必然市民への影響も多大となります。地域総合病院の存続は一地方自治体のみの問題ではありません。

地方田舎県境地の医師過疎、病院の重要性を長野・岐阜両県・国へも現状を訴え、地域医療を守り抜く為に強力に働きかけ、併せて県境地にある地方病院へ手厚い財政支援を強く求めていくべきと思います。